

令和2年

第1回尾花沢市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和2年1月15日(水) 午前10時～午前10時55分
- 2 場 所 学習情報センター悠美館ハイビジョンホール
- 3 出席委員
市 長 菅 根 光 雄
教育長 五十嵐 健
教育長職務代理者 東海林 衡
委 員 森 山 千 洋
委 員 笹 原 謙一郎
委 員 鈴 木 瑞 穂
- 4 事 務 局
総務課長 鈴 木 浩
総合政策課長 加 賀 孝 一
こども教育課長 山 口 清 孝
教育指導室長 高 橋 和 哉
社会教育課長 五十嵐 満 徳

会議次第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
 - ・尾花沢市学校教育検討委員会提言書について
 - ・尾花沢市教育の振興に関する大綱の計画期間の延長について
- 4 その他
- 5 閉 会

議事録

進 行 ただいまより、「令和２年度第１回尾花沢市総合教育会議」を開催いたします。はじめに市長よりごあいさつをお願いします。

市 長 皆さん、ご苦労様です。第１回尾花沢市総合教育会議に御出席いただき誠にありがとうございます。今年の冬は、近年になく雪の少ない正月となりました。今後もこのような天候が続くとの予報がなされておりますが、この少雪が本市の農業などにどのような影響を及ぼすのか注視してまいりたいと考えております。

本日は、今後、子どもの数がどのように推移していくのかを示していただき、これからの小中学校のあり方についてご意見を賜りたいと思います。私が市議会議員の当時、平成９年から将来の学校のあり方を問い続けてきました。平成２７年に第一次統合計画が終了したわけですが、平成９年から数えれば１８年も経過しております。学校のあり方は、将来のまちづくりにも大きな影響を与えます。北海道の深川市のような形で、目途を定めて進めていくのも一つの方法かと思えます。深川市の場合は、教育委員会が主体となって、５年を目途に統合を進め、市民にもしっかりと受け入れられたという事案を行政視察で学んできました。

本日は、今後の尾花沢市の学校のあり方について様々な角度から積極的なご意見を賜りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

進 行 ありがとうございます。それでは、次第の３番、「協議事項」を進めさせていただきます。

座長は、尾花沢市総合教育会議運営要綱第３条第１項の規定により、菅根市長をお願いします。

市 長 暫時の間、座長を務めさせていただきますので、ご協力の程よろしく願い申し上げます。それでは、３番、「尾花沢市学校教育検討委員会提言書について」を協議したいと思います。事務局、説明よろしく願いします。

こども教 去る１２月２５日、尾花沢市学校教育検討委員会より、教育委員会教育長あてに「将来を展望した尾花沢市小中学校のあり方に関する提言書」が提出されました。教育委員会では、その提言を受け、１２月２６日の「１２月教育委員会」において話し合いを行っております。本日は、提言に対する教育委員会の意見を付して総合教育会議に提出するものでございます。

(学校教育検討委員会の提言書について読み上げ説明)

市長 ただいまの「尾花沢市学校教育検討委員会提言書」に関する説明について、委員の皆様からご質問があればお願いいたします。

委員 保護者へのアンケート結果を見れば、今回の提言書は妥当であると思います。福原小学校は平成25年に統合しておりますが、平成29年に「福原地区の教育を語る会」の参集範囲を拡大し、60人規模で子ども達をサポートする会議を開催しています。学校と連携して地域がどれだけ手助けできるのかを模索してきたところです。統合に向かう際には地域の意向を十分に加味しながら進めていただきたいと思います。

また学校の統合は、中学校よりも小学校の統合の方が子ども達に及ぼす影響が多きいと思われます。次の統合は尾花沢小学校という大人数の学校との統合でもあり、統合前の子ども同士の交流会、保護者の打合せ等、これまで蓄積したノウハウを生かし適切に対応していただければと思います。統合の進め方として2点お願いします。

市長 地域の意向も大切ではありますが、中学校は現実の問題として自分の好きな部活動ができないなど、様々な問題があり、子ども達のためにどうあるべきかを地域の方と話し合いながら進めていく必要があります。

子ども達は柔軟性があり対応していくと思われますが、これまでの統合のノウハウを生かし、子ども達にとって負担が少ないように進めていただきたいと思います。

委員 これまでの小学校の統合は、地区内での統合であったため、これまでのケースとは違ってくると思われます。統合前の交流を深め丁寧に進めていく必要があると思われます。統合の際に感じたことは、子ども以上に保護者に不安があり、その不安を丁寧に解決しながら進めていくことが大切だと感じています。地域の学校という熱い思いがあるので、地域に対する説明をしっかりとしていくことが必要だと思われます。

市長 行政主体で一気に統合するのではなく、各地域の状況を聞くことも大切です。

教育長 これまで多くの統合を進めてきた訳ですが、今までと違うのは、大きな学校と一緒にするのではなく、新たな学校を作っていくという視点に立ち、子ども達、保護者の交流を図ると同時に、どのような学校にしていきたいかを一緒に考える必要があります。

市長 大切なことです。この意見に対していかがでしょうか。

委員 丁寧な対応も必要ですか、総合振興計画、都市計画マスタープランに夢や希望を感じるような大胆な施策を掲げ、他の市から移り住みたくなるような尾花沢市にするため、特色ある学校づくりを進めていく必要があるのではないのでしょうか。まちづくりの観点からもしっかり話合っていく必要があると思います。

市長 どこに何があるかによってまちは大きく変わってきます。まちをどのように再生していくのか考えたとき、学校をどこに配置するのかによって、他の施設との連携や、今後のまちづくりに大きく関わってきますので、慎重に考えていきます。

委員 建物が新しくなることと並行して、近隣では、東根市の中高一貫教育、新庄市の小中一貫教育もあり、そういう面にも意識が芽生えてきています。小学校と中学校を近い距離に建設して連携できるようにしていくのか、もしくは義務教育学校のような一貫校にしていくのかということに関心を持っている保護者もいます。この話が進んでいく中で、場所なり、統合の時期なりを含め話合われると思いますが、尾花沢市の教育をどうしていくかという議論が必要だと思います。

市長 検討委員会の提案を今後のまちづくりにどのように生かしていくかは大事なことです。色々なご意見賜りながら検討し、総合振興計画に反映してまいります。また、期間をどの程度設けるかということも大事なことです。老朽化が進むおもだか保育園のあり方なども含め、小学校と中学校が隣接する形がいいのか、皆様からの意見を集約した上で検討してまいります。

教育長 この場ではなかなかはっきりしたことは言えないのですが、併設型が良いのか、義務教育学校のような形が良いのか、それぞれ課題もあるようです。期間は長くはとれないとは思いますが、どのような学校にしていくか十分話し合い、意見を聞きながら進めていきます。

これまで地域の方、保護者の方の意見を聞いてきたわけですが、一番近いところで子ども達を見てくださっている地元の先生方からも率直な意見を伺ってみたいと思います。

市長 現場の声を聞く事も大切です。
その他に無いようでしたら、尾花沢市教育の振興に関する大綱の計画期間の延長について」を協議したいと思います。事務局、説明よろしくをお願いします。

こども教育課長 大綱の計画期間については、平成27年度から令和元年度までの5年間として大綱の実現を目指した取り組みを推進しておりますが、次期教育大綱については、令和3年度を初年度とする第7次尾花沢市総合計画と整合性を図る必要がありますので、実施計

画の計画期間を1年間延長するものです。

市長 何かご質問ございませんか。

委員 尾花沢市の特色ある教育についてですが、英語教育に力を入れていくなかで、尾花沢市が海外と交流できる都市をつくり、尾花沢市の子ども達が海外の子ども達と文化交流できるようになればありがたいなと思いますが如何ですか。

市長 尾花沢市としては、海外の特定の都市に働きかけるという段階ではございません。できることなら民間の交流団体を育てていきたいと思っております。また、企業間の交流をきっかけとして、まちの交流に繋がっているパターンもあるようです。

個人的な見解ですが、ただ単に海外のまちと交流することによって子ども達の英語力が上がるのか考える必要があると思えます。英語力を高めるにはどうすれば良いのか。現在ALTの活用を図っていますが、どのような効果が出たのかなど検証する必要があると思っております。

議員時代に提言した取り組みになりますが、金沢市では小学校高学年から英語の授業を取り入れ、中学2年生の頃には、中学校の英語をほぼ習得し、金沢に来た観光客に自分のまちを紹介する読本をつくっていました。文科省のモデル事業を受けての取り組みで、英検合格率も高く、英語力の向上に繋がっていました。

以前、ALTとしてフォスターさんがいらしたときは気軽に話しかけてくれるなど、地域に溶け込んでいました。ALTの方がもっと地域に溶け込んでくれれば、外人アレルギーもなくなっていくのではないのでしょうか。

委員 英語を話せる人やIT関係に詳しい方に地域おこし協力隊になっていただき、地域教育の中で活躍してもらえれば良いのではないのでしょうか。

市長 今尾花沢の企業で一番求められているのは技術者です。

尾花沢市では、技術者が非常に不足している状況です。このような状況を踏まえ、市では工業系の高専などと連携を図っていく予定です。市内の企業に対する先生方の認識も必要です。特色ある教育として、このような視点も考えられるのではないのでしょうか。

教育長 提言書の「ふるさと愛」の育成という点ですが、企業とのふれあいや地元企業を知ると言うことも「ふるさと愛」だと意図しています。

市長 中学校の夢講話を行った際、子ども達から尾花沢市には働く場所がないという話が出ましたが、市内の企業に目を向けてもらえば、素晴らしい企業が育っていることを話したところです。大手企業と人事交流等が行われ、着実に前に進んでいます。

その他、皆様から何かございませんでしょうか。

無ければ以上を持ちまして第1回尾花沢市総合教育会議を閉じさせていただきます。ご協力ありがとうございました。